

# 大気汚染調査と公害処理状況

第 3 報

昭和38年3月

横浜市衛生局

昭和27年（1952年）ロンドンにおいて発生したスモッグにより約4,000人の死亡者を出したことは各位の記憶に未だ新しいところではありますが、日本においても昨年末、東京、大阪等においてしばしばその発生を見るようになり、都市住民に不安をあたえつつありますことは誠に遺憾なことであります。

横浜市においては、昭和31年末以来国立公衆衛生院の指導の下に降下ばい塵計14個を市内に配置して降下ばい塵量の測定を開始し、以後逐次その数を増加し、また亜硫酸ガス測定器も併置し、昨年末においては降下ばい塵計24箇所、亜硫酸ガス測定器14箇所となりました。

一方市内の産業構造はこの5カ年の間に地域的に変動して参りましたので、本年から新らたな観点で測定点を検討して測定を継続して行くことといたしました。

都市における公害問題も産業活動の活発化と市民生活の安定化に伴い、その件数も日ごとに増加の傾向にありますことは遺憾にたえません。

大気汚染の主要原因である降下ばい塵、亜硫酸ガス等の測定資料が、国におけるばい煙の排出について規制を行なう立法化に預つて力あつたことは、同様の調査を継続して来られた各団体とともに同慶の至りであります。

ここに第一期の調査を終了するに当り、昭和37年度の資料とともに若干の考察を加え、また取り扱つて参りました公害事例についても検討を加え、第三報として発表の運びとなりました。

この機会に調査について御指導、御協力を頂きました各位に感謝の意を表するとともに今後とも御指導下さいますようお願いいたします。

昭和38年3月

衛生局長 谷山幸男

## 目 次

第1 大気汚染調査	1
1 緒 言	1
2 調査成績	3
(1) 降下ばい塵	3
(2) 鉄	18
(3) 亜硫酸ガス	19
(4) 総 括	23
第2 学童の健康調査	24
1 緒 言	24
2 調査方法	24
(1) 調査地域	24
(2) 調査項目	25
3 調査結果	25
(1) 浮遊粉塵	25
(2) 粒度分布	26
(3) 学童健康調査	27
4 総 括	34
第3 公 害	35
1 緒 言	35
2 処理状況	35
3 騒音防止条例関係	40

# 第 1 大気汚染調査

## 1 緒 言

本市においては昭和31年8月に市内15箇所以降下ばい塵計を設置して測定を開始して以来、工業地域の開発、根岸湾の埋立による工場造成などの影響を把握すべく順次増設を行ない現在市内24箇所において測定を実施している。

また亜硫酸ガスについても昭和34年1月に測定器（二酸化鉛法）を10箇所に設置、その後降下ばい塵計と同様に増設し現在は14箇所に設置してある。

今回は昨年（昭和36年）の第2報に引き続き昭和37年の成績と昭和32年からの降下ばい塵量ならびに昭和34年からの亜硫酸ガスの測定成績をまとめたのでその概要を述べることにする。

第1表 横浜市降下ばい塵調査測定点

（昭和37年12月現在）

No.	地域区分	測 定 点	所 在 地
1	工業地域	※芝浦工機株式会社	鶴見区末広町2の4
2		※味の素KK横浜工場	〃 大黒町30
8		※日本ビクターKK入江工場	神奈川区守屋町3の12
9		※中央卸売市場	〃 山内町1の1
3	準工業地域	※鶴見保健所	鶴見区本町通り4の180
4		※旭硝子KK平安アパート	〃 平安町2の131
6		※国鉄鶴見給電区	〃 矢向町1,013
5	商業住宅	※第一商業高等学校	鶴見区東寺尾町703
7		国鉄鶴見アパート	〃 下末吉町286
10		※神奈川工業高等学校	神奈川区平川町57
11		県立音楽堂	西区紅葉ヶ丘34
12		横浜公園平和球場	中区横浜公園
13		※緑ヶ丘高等学校	〃 本牧緑ヶ丘37
14		※横浜市衛生研究所	南区中村町2の102
15		南保健所	〃 花ノ木町3の48
16		保土ヶ谷小学校	保土ヶ谷区月見台288

17	地 域	※磯子警察署	磯子区磯子町禰馬1
18		※杉田小学校	〃 杉田町40
21		電々公社アパート	南区大久保町市ノ坪235
22		※横浜高等学校	金沢区堀口町88
23		東急車輛株式会社	〃 釜利谷町1
24		ブリヂストンアパート	戸塚区柏尾町1
19	田園 地域	港北保健所	港北区菊名町780
20		綱島小学校	〃 南綱島181

- (注) 1 地域区分は用途地域によらず実状による  
2 ※印は二酸化鉛法による亜硫酸ガス測定器併設場所を示す

第1図 横浜市降下ばい塵調査測定点



## 2 調査成績

### (1) 降下ばい塵

降下ばい塵量の測定は英国規格の降下ばい塵計 (Deposit gauge) による方法で毎月末に試料を回収して分析し  $\text{ton}/\text{km}^2/\text{month}$  (以下文中「t」と略す) で表わしている。

測定点は第1表及び第1図に示されるように工業地域4箇所, 準工業地域3箇所, 商業住宅地域15箇所, 田園地域2箇所の計24箇所である。

昭和37年の調査成績の結果は第2図及び第2表に示されるとおりで, その概要は次のようである。

ア 年間平均の降下ばい塵量の最高は芝浦工機の24.7tである。

年平均の降下ばい塵の総量について地域別にみると工業地域で10.6~24.4t (平均16.2t), 準工業地域で12.3~14.7t (平均13.5t), 商業住宅地域で5.9~14.5t (平均9.4t), 田園地域で7.7~9.7t (平均8.7t) で, 工業地域は田園地域の約2倍, 準工業地域で約1.6倍となつている。また商業住宅地域内でも地理的条件で工場地帯の影響を受けやすいところ, ビル街の中心にあるようなところは相当高い値を示している。

イ 地域的に降下ばい塵量の成分比率をみると第4表のように不溶解性成分が工業地域の63.6%から準工業地域の60.0%, 商住地域の56.4%, 田園地域の54.0%と順次減少している。

また溶解性成分中の灼熱減が工業地域で13%であるに対し, 準工業, 商住地域と順次増加して田園地域では約2倍の25.3%にも達している。



第2表 測定点別降下ばい塵量

昭和37年1月~12月 ton/km<sup>2</sup>/month

地域区分	測定点	不溶解性成分				溶解性成分			総量
		ター ール分	ター ール分 以外 炭素 分	灰分	小計	灼熱減	灰分	小計	
工業 地域	芝浦工機株式会社	0.15	4.8	13.2	18.1	2.0	4.6	6.6	24.7
	味の素横浜工場	0.21	2.5	8.6	11.3	2.6	4.8	7.4	18.7
	日本ビクター入江工場	0.16	1.9	3.6	5.7	2.0	2.9	4.9	10.6
	中央卸売市場	0.21	1.6	4.4	6.2	1.6	2.9	4.5	10.7
	平均	0.18	2.7	7.5	10.3	2.1	3.8	5.9	16.2
準 工業 地域	鶴見保健所	0.22	2.4	7.4	10.0	1.7	3.0	4.7	14.7
	旭硝子平安アパート	0.19	1.6	5.1	6.9	2.6	4.1	6.7	13.6
	国鉄鶴見給電区	0.17	1.8	5.6	7.5	2.6	2.2	4.8	12.3
	平均	0.19	1.9	6.0	8.1	2.3	3.1	5.4	13.5
商 業 住 宅 地 域	第一商業高等学校	0.14	2.8	6.2	9.2	1.5	2.6	4.1	13.3
	国鉄鶴見アパート	0.17	1.2	3.4	4.8	2.1	3.0	5.1	9.9
	神奈川工業高等学校	0.11	1.3	1.9	3.3	1.5	2.5	4.0	7.3
	県立音楽堂	0.19	1.4	5.8	7.4	1.3	2.7	4.0	11.4
	横浜公園平和球場	0.20	1.9	5.5	7.6	2.3	4.6	6.9	14.5
	緑ヶ丘高等学校	0.18	1.2	2.6	4.0	1.9	2.6	4.5	9.5
	横浜市衛生研究所	0.20	1.7	3.7	5.6	1.7	2.6	4.3	9.9
	南保健所	0.16	2.2	3.8	6.1	1.4	2.1	3.5	9.6
	保土ヶ谷小学校	0.16	1.3	2.9	4.3	1.6	1.7	3.3	7.6
	磯子警察署	0.18	1.3	4.7	6.2	1.5	2.2	3.7	9.9
	杉田小学校	0.23	0.9	3.9	5.0	2.5	3.4	5.9	10.9
	電々公社アパート	0.14	0.9	2.5	3.5	1.3	1.8	3.1	6.6
	横浜高等学校	0.15	1.0	2.3	3.5	1.2	1.2	2.4	5.9
	東急車輛株式会社	0.18	1.1	3.1	4.4	2.0	1.8	3.7	8.1
	ブリヂストンタイヤアパート	0.13	1.3	1.8	3.2	1.2	1.5	2.7	5.9
平均	0.17	1.5	3.6	4.2	1.7	2.4	4.1	9.4	
田 園 地 域	港北保健所	0.14	1.6	2.6	4.3	1.4	2.0	3.4	7.7
	綱島小学校	0.19	1.1	3.8	5.1	3.0	1.6	4.6	9.7
	平均	0.17	1.4	3.2	4.7	2.2	1.8	4.0	8.7
総平均		0.18	1.7	4.5	6.4	1.9	2.7	4.6	11.0



第3表 地域別降下ばい塵量及び成分比率

昭和37年1月～12月 ton/km<sup>2</sup>/month

地域区分	不溶解性成分				溶解性成分			総量
	タール分	タール分以外の炭素分	灰分	小計	灼熱減	灰分	小計	
工業地域	0.18 (1.1)	2.7 (16.7)	7.5 (46.3)	10.3 (63.6)	2.1 (13.0)	3.8 (23.4)	5.9 (36.4)	16.2
準工業地域	0.19 (1.4)	1.9 (14.1)	6.0 (44.5)	8.1 (60.0)	2.3 (17.0)	3.1 (23.0)	5.4 (40.0)	13.5
商業・住宅地域	0.17 (1.8)	1.5 (16.0)	3.6 (38.3)	5.3 (56.4)	1.7 (18.1)	2.4 (25.5)	4.1 (43.6)	9.4
田園地域	0.17 (2.0)	1.4 (16.1)	3.2 (36.8)	4.7 (54.0)	2.2 (25.3)	1.8 (20.7)	4.0 (46.0)	8.7
平均	0.18 (1.5)	1.9 (15.8)	5.1 (42.5)	7.1 (59.2)	2.1 (17.5)	2.8 (23.3)	4.9 (40.8)	12.0

注 ( )内は総量に対する比率

昭和32年からの成績の概要を比較してみると第4表、第5表、第3図のとおりである。

降下ばい塵総量について昭和32年の値を1.0とすると、昭和37年は工業地域で0.59～0.89、準工業地域で0.64～0.77、商住域で0.56～0.73、田園地域で0.65～1.16となり、昭和33年に増加を示したところもあるが漸次減少の傾向をたどってきている。

過去の測定成績の最高値でも工業地域で昭和35年の53.9tから昭和37年には39.6tと減少してきている。準工業地域も昭和34年の42.5tから昭和37年の24.3tへと減少している。

第4表 年次別、成分別降下ばい塵量

ton/km<sup>2</sup>/month

地域	測定点	年	不溶解性成分				溶解性成分			総量
			タール分	タール分以外の炭素分	灰分	小計	灼熱減	灰分	小計	
工業	芝浦工機株式会社	32	0.07	2.9	17.6	20.6	2.4	4.8	7.3	27.8
		33	0.07	2.8	14.2	17.1	2.9	8.1	11.0	28.1
		34	0.07	2.0	18.2	20.3	4.0	8.6	12.6	32.9
		35	0.06	1.8	14.2	16.1	3.1	6.1	9.2	25.3
		36	0.12	4.5	15.6	20.2	2.8	6.6	9.4	29.6
		37	0.15	4.8	13.2	18.1	2.0	4.6	6.6	24.7
		工業	味の素横浜工場	32	0.10	2.6	15.5	18.1	2.6	4.1
33	0.08			2.6	14.3	17.0	2.8	5.0	7.8	24.8
34	0.11			1.3	15.6	17.0	2.6	5.0	7.6	24.6
35	0.08			1.4	12.6	14.1	1.8	4.2	6.0	20.1
36	0.11			2.3	10.1	12.5	2.5	5.4	7.9	20.4
37	0.21			2.5	8.6	11.3	2.6	4.8	7.4	18.7
工業	日本ビクター入江工場			32	0.10	3.1	8.6	11.8	2.6	3.6
		33	0.11	2.3	9.0	11.4	2.7	4.2	6.9	18.3
		34	0.08	0.9	9.1	10.1	1.9	3.6	5.5	15.6
		35	0.08	1.0	6.8	7.9	1.3	3.0	4.3	12.2
		36	0.10	1.3	6.8	8.2	2.0	3.6	5.6	13.8
		37	0.16	1.9	3.6	5.7	2.0	2.9	4.9	10.6
		工業	中央卸売市場	32	0.09	2.3	6.8	9.2	1.6	2.9
33	0.11			2.3	8.5	10.9	2.2	4.8	7.0	17.9
34	0.11			1.1	7.9	9.1	1.7	3.7	5.4	14.5
35	0.08			1.2	5.5	6.8	1.3	2.9	4.2	11.0
36	0.11			1.2	5.6	6.9	1.7	3.4	5.1	12.0
37	0.21			1.6	4.4	6.2	1.6	2.9	4.5	10.7
準工業	鶴見保健所			32	0.08	2.8	14.4	17.2	2.0	3.9
		33	0.06	1.2	12.2	13.5	2.1	4.7	6.8	20.3
		34	0.08	0.8	11.6	12.5	2.0	4.9	6.9	19.4
		35	0.08	1.0	9.5	10.6	1.3	3.0	4.3	14.9
		36	0.10	1.6	10.9	12.6	1.9	4.0	5.9	18.5
		37	0.22	2.4	7.4	10.0	1.7	3.0	4.7	14.7

地域	測定点	年	不溶解性成分				溶解性成分			総量
			タール分	アール分以外の炭素分	灰分	小計	灼熱減	灰分	小計	
準 工	旭硝子 平安アパート	32	0.06	1.9	10.9	12.8	2.3	4.7	7.0	19.9
		33	0.08	1.3	11.6	13.0	2.1	4.5	6.6	19.6
		34	0.13	0.7	10.7	11.5	2.3	5.5	7.8	19.3
		35	0.07	1.3	10.9	12.3	1.7	3.8	5.5	17.8
		36	0.12	1.4	8.2	9.8	2.0	3.6	5.6	15.4
		37	0.19	1.6	5.1	6.9	2.6	4.1	6.7	13.6
準 工	国鉄鶴見給電区	32	0.08	1.6	9.1	10.7	1.9	3.3	5.2	16.0
		33	0.07	1.7	9.2	11.0	2.3	4.5	6.8	17.8
		34	0.06	0.5	8.8	9.4	2.3	3.9	6.2	15.6
		35	0.05	0.6	7.1	7.8	1.2	2.3	3.5	11.3
		36	0.09	1.4	7.5	9.0	1.3	2.6	3.9	12.9
		37	0.17	1.8	5.6	7.5	2.6	2.2	4.8	12.3
商 住	第一商業高等学校	32	0.10	3.3	12.2	15.6	2.5	4.2	6.7	22.4
		33	0.08	3.9	12.0	16.0	1.8	3.5	5.3	21.3
		34	0.08	0.8	7.9	8.8	1.7	3.4	5.1	13.9
		35	0.06	1.3	6.7	8.0	1.6	3.5	5.1	13.1
		36	0.10	2.3	9.2	11.5	1.7	3.2	4.9	16.4
		37	0.14	2.8	6.2	9.2	1.5	2.6	4.1	13.3
商 住	国鉄鶴見アパート	32	0.09	1.4	6.8	8.3	2.2	3.0	5.2	13.5
		33	0.06	1.0	6.0	7.1	2.0	3.6	5.6	12.7
		34	0.09	0.5	5.9	6.5	2.7	4.2	6.9	13.4
		35	0.06	0.5	5.5	6.1	1.7	2.7	4.4	10.5
		36	0.09	0.9	4.6	5.5	1.8	3.0	4.8	10.3
		37	0.17	1.2	3.4	4.8	2.1	3.0	5.1	9.9
商 住	神奈川工業高等学校	32	0.06	1.6	8.1	9.8	1.1	2.2	3.3	13.1
		33	0.06	1.5	4.9	6.5	1.5	2.9	4.4	10.9
		34	0.07	0.2	5.3	5.6	1.6	2.7	4.3	9.9
		35	0.06	0.8	4.8	5.7	1.7	2.1	3.8	9.5
		36	0.09	0.9	4.5	5.5	1.4	2.4	3.9	9.4
		37	0.11	1.3	1.9	3.3	1.5	2.5	4.0	7.3

地域	測定点	年	不溶解性成分				溶解性成分			総量
			タール分	タール分以外の炭素分	灰分	小計	灼熱減	灰分	小計	
商    住	県立音楽堂	32	—	—	—	—	—	—	—	—
		33	—	—	—	—	—	—	—	—
		34	0.08	0.5	8.0	8.6	1.5	2.6	4.1	12.7
		45	0.07	0.7	6.3	7.1	1.6	2.6	4.2	11.3
		36	0.10	1.5	6.5	8.1	1.5	2.5	4.0	12.1
		37	0.19	1.4	5.8	7.4	1.3	2.7	4.0	11.4
		商    住	横浜公園平和球場	32	—	—	—	—	—	—
33	—			—	—	—	—	—	—	—
34	0.09			0.5	6.8	7.4	2.0	3.4	5.4	12.8
35	0.07			0.8	7.3	8.2	1.8	3.0	4.8	13.0
36	0.12			0.7	6.6	7.4	1.9	4.4	6.3	13.7
37	0.20			1.9	5.5	7.6	2.3	4.6	6.9	14.5
商    住	緑ヶ丘高等学校			32	—	—	—	—	—	—
		33	—	—	—	—	—	—	—	—
		34	0.06	0.2	2.4	2.7	1.2	2.1	3.3	6.0
		35	0.05	0.5	2.4	3.0	1.1	1.8	2.9	5.9
		36	0.10	0.8	4.4	5.3	2.7	4.7	7.4	12.7
		37	0.18	1.2	2.6	4.0	1.9	2.6	4.5	9.5
		商    住	横浜市衛生研究所	32	—	—	—	—	—	—
33	—			—	—	—	—	—	—	—
34	0.10			0.3	5.2	5.6	1.9	3.0	4.9	10.5
35	0.07			0.3	5.0	5.4	1.5	2.5	4.0	9.4
36	0.11			1.1	5.5	6.7	1.6	2.8	4.4	11.1
37	0.20			1.7	3.7	5.6	1.7	2.6	4.3	9.9
商    住	南保健所			32	—	—	—	—	—	—
		33	—	—	—	—	—	—	—	—
		34	0.07	0.3	4.6	5.0	1.3	2.1	3.4	8.4
		35	0.06	0.5	4.1	4.6	1.1	1.9	3.0	7.6
		36	0.10	0.8	4.7	5.5	1.3	2.3	3.5	9.0
		37	0.16	2.2	3.8	6.1	1.4	2.1	3.5	9.6



地域	測定点	年	不溶解性成分				溶解性成分			総量
			タール分	タール分以外の炭素分	灰分	小計	灼熱減	灰分	小計	
商 住	東急車輛株式会社	32	—	—	—	—	—	—	—	—
		33	—	—	—	—	—	—	—	—
		34	—	—	—	—	—	—	—	—
		35	0.06	0.8	4.8	5.7	1.2	2.0	3.2	8.9
		36	0.09	0.6	3.6	4.3	2.0	2.3	4.3	8.6
		37	0.18	1.1	3.1	4.4	2.0	1.8	3.7	8.1
		商 住	ブリヂストンタイヤ アパート	32	—	—	—	—	—	—
33	—			—	—	—	—	—	—	—
34	—			—	—	—	—	—	—	—
35	—			—	—	—	—	—	—	—
36	0.08			1.3	3.9	5.3	1.6	1.9	3.5	8.8
37	0.13			1.3	1.8	3.2	1.2	1.5	2.7	5.9
田 園	港北保健所			32	0.06	0.9	6.9	8.3	1.9	2.0
		33	0.08	1.3	5.4	7.2	2.5	2.9	5.4	12.6
		34	0.08	0.4	4.9	5.4	2.0	2.6	4.6	10.0
		35	0.06	1.1	4.5	5.7	1.4	1.5	2.9	8.6
		36	0.08	1.0	4.6	5.7	1.4	2.3	3.7	9.3
		37	0.14	1.6	2.6	4.3	1.4	2.0	3.4	7.7
		田 園	綱島小学校	32	0.05	0.9	3.6	4.6	1.7	2.1
33	0.06			0.4	4.8	5.3	2.3	2.8	5.1	10.4
34	0.09			0.7	5.9	6.7	1.8	2.6	4.4	11.1
35	0.07			0.8	4.3	5.2	1.4	1.9	3.3	8.5
36	0.10			1.0	4.0	5.1	1.4	1.7	3.1	8.2
37	0.19			1.1	3.8	5.1	3.0	1.6	4.6	9.7

第5表 年次別、月別降下ばい塵量

ton/km<sup>2</sup>/month

地域	測定点	月												平均	昭和32 年に対 する比 率	
		年	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11			12
工業	芝浦工機 株式会社	32	20.3	16.1	(74.9)	33.7	41.2	47.4	35.6	9.7	37.7	22.7	21.3	20.2	27.8	1.00
		33	14.5	18.6	26.4	25.3	16.0	33.4	25.2	22.9	34.7	49.9	21.0	28.9	28.1	1.01
		34	20.6	41.5	36.3	35.0	33.9	36.7	24.9	23.6	34.6	30.5	38.5	38.8	32.9	1.18
		35	27.4	22.1	31.7	53.9	47.3	18.9	10.0	13.7	21.2	15.8	22.6	19.3	25.3	0.91
		36	16.8	28.7	39.6	28.6	22.9	13.3	11.9	30.5	43.1	57.6	—	32.7	29.6	1.06
		37	33.3	30.2	39.6	31.5	22.1	32.6	23.8	16.0	11.3	12.1	—	18.9	24.7	0.89
		37	33.3	30.2	39.6	31.5	22.1	32.6	23.8	16.0	11.3	12.1	—	18.9	24.7	0.89
工業	味の素 横浜工場	32	12.6	17.8	25.0	40.8	37.6	35.0	28.9	11.6	30.1	18.2	18.2	21.0	24.7	1.00
		33	18.2	15.4	22.7	20.9	13.5	37.7	22.5	19.3	27.0	26.5	25.1	42.4	24.8	1.00
		34	18.8	27.1	27.4	27.1	27.2	24.6	20.6	25.8	33.2	22.2	20.9	21.1	24.6	1.00
		35	14.0	15.8	18.4	24.7	23.6	16.7	15.0	—	24.5	13.1	23.9	17.9	20.1	0.81
		36	15.5	17.5	29.9	28.6	28.9	13.6	14.5	21.6	19.0	18.8	25.2	20.8	20.4	0.83
		37	15.9	14.7	25.3	28.0	9.4	28.3	23.8	14.2	11.3	12.1	—	13.9	18.7	0.76
		37	15.9	14.7	25.3	28.0	9.4	28.3	23.8	14.2	11.3	12.1	—	13.9	18.7	0.76
工業	日本ビクター 入江工場	32	11.9	13.3	17.0	18.3	28.6	19.6	18.1	11.8	21.3	15.5	11.3	30.6	18.1	1.00
		33	45.5	10.3	16.3	—	21.4	30.5	26.5	20.6	18.5	15.0	9.3	14.2	18.3	1.01
		34	9.7	17.0	15.2	22.8	14.2	—	13.2	22.4	21.2	—	10.6	10.1	15.6	0.86
		35	9.7	16.6	21.2	18.9	14.7	5.4	11.2	10.2	14.4	10.2	8.3	5.6	12.2	0.67
		36	11.6	8.4	11.7	24.8	8.0	20.4	6.6	17.1	22.0	10.5	12.6	12.5	13.8	0.76
		37	8.4	7.5	16.1	—	9.5	11.0	16.4	4.7	11.0	—	11.3	10.1	10.6	0.59
		37	8.4	7.5	16.1	—	9.5	11.0	16.4	4.7	11.0	—	11.3	10.1	10.6	0.59
工業	中央卸売市場	32	7.9	7.7	—	—	—	17.7	16.1	11.5	20.7	13.5	11.1	16.0	13.6	1.00
		33	14.7	12.5	14.6	—	24.7	30.1	40.9	19.0	19.7	14.0	12.9	18.3	17.9	1.32
		34	9.8	13.9	19.3	16.5	12.6	16.2	12.0	17.7	20.0	11.3	12.4	13.2	14.5	1.07
		35	8.0	11.2	15.1	14.7	15.3	13.4	9.7	10.9	10.7	6.6	9.1	7.7	11.0	0.81
		36	10.0	9.0	15.1	18.2	13.7	14.7	6.5	5.3	16.5	12.8	12.4	10.2	12.0	0.88
		37	9.4	14.2	15.7	9.7	8.5	10.7	15.3	10.1	6.5	—	10.0	7.3	10.7	0.79
		37	9.4	14.2	15.7	9.7	8.5	10.7	15.3	10.1	6.5	—	10.0	7.3	10.7	0.79
準 工業	鶴見保健所	32	17.9	13.9	33.9	17.6	40.2	28.9	22.4	12.1	25.3	24.0	21.2	19.9	23.1	1.00
		33	20.0	17.1	25.1	22.9	16.5	23.8	26.3	14.0	19.0	14.9	17.1	27.0	20.3	0.88
		34	11.8	12.8	21.8	34.5	14.5	28.1	16.5	18.2	26.9	15.3	13.6	18.7	19.4	0.84
		35	14.8	21.3	18.6	20.4	16.4	15.5	8.6	15.2	11.3	14.0	10.1	12.2	14.9	0.65
		36	15.5	14.8	26.9	21.3	19.4	15.4	10.1	31.7	18.8	11.5	22.4	15.1	18.5	0.80
		37	15.7	17.4	16.5	14.8	17.2	17.8	12.7	11.1	17.0	15.6	8.8	11.9	14.7	0.64
		37	15.7	17.4	16.5	14.8	17.2	17.8	12.7	11.1	17.0	15.6	8.8	11.9	14.7	0.64

地域	測定点	月												平均	昭和32年に対する比率	
		年	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11			12
工	旭硝子 平安アパート	32	13.3	12.0	15.5	20.2	19.7	21.7	37.6	23.4	29.6	14.2	16.9	14.3	19.9	1.00
		33	26.9	12.7	18.4	16.5	15.4	18.6	29.3	16.5	18.9	14.7	15.7	21.3	19.6	0.98
		34	22.6	15.6	13.7	42.5	12.3	—	13.8	22.8	21.7	14.4	16.7	16.4	19.3	0.97
		35	21.6	15.6	17.7	21.9	13.0	13.8	12.3	19.5	33.3	14.0	—	12.9	17.8	0.89
		36	13.2	10.6	15.9	15.3	17.4	19.1	9.0	18.0	21.1	—	17.6	12.6	15.4	0.77
		37	11.8	17.8	13.9	14.8	13.0	16.8	21.9	10.1	13.1	10.1	5.3	14.8	13.6	0.68
		38	10.1	11.6	15.0	19.8	23.6	16.5	18.2	15.6	22.8	12.2	12.2	14.2	16.0	1.00
工	国鉄鶴見 給電区	33	15.3	23.8	16.7	10.4	12.2	—	18.2	20.2	19.0	17.8	12.0	15.6	17.8	1.11
		34	10.9	14.2	13.1	20.8	15.1	17.5	15.4	22.5	19.6	11.3	11.4	15.3	15.6	0.98
		35	9.3	12.0	14.2	12.7	13.5	9.3	9.6	14.3	11.5	10.0	7.5	11.7	11.3	0.71
		36	10.5	8.4	13.1	15.4	17.0	16.4	6.5	15.9	21.6	10.5	10.7	9.6	12.9	0.81
		37	24.3	9.8	12.4	12.0	15.6	—	10.2	6.2	11.5	—	13.1	7.9	12.3	0.77
		38	10.1	11.6	15.0	19.8	23.6	16.5	18.2	15.6	22.8	12.2	12.2	14.2	16.0	1.00
		39	15.3	23.8	16.7	10.4	12.2	—	18.2	20.2	19.0	17.8	12.0	15.6	17.8	1.11
住	第一商業 高等学校	32	—	18.6	34.4	34.0	38.6	24.7	20.9	13.5	18.8	14.3	13.9	14.5	22.4	1.00
		33	18.1	36.9	21.4	32.4	16.8	23.5	16.7	19.4	15.3	14.6	8.8	14.0	21.3	0.95
		34	12.0	12.2	16.3	17.7	14.1	17.8	17.5	14.9	13.1	10.6	10.9	9.6	13.9	0.62
		35	23.4	—	—	24.9	15.9	—	4.8	11.6	12.4	6.0	—	6.3	13.1	0.58
		36	9.7	16.6	17.3	33.1	16.4	11.5	22.7	8.2	28.9	8.5	16.5	8.0	16.4	0.73
		37	7.4	38.8	21.7	—	11.8	11.9	9.7	4.1	11.7	—	11.1	6.1	13.3	0.59
		38	10.1	11.6	15.0	19.8	23.6	16.5	18.2	15.6	22.8	12.2	12.2	14.2	16.0	1.00
住	国鉄鶴見 アパート	33	9.0	10.9	11.5	15.1	15.4	15.4	16.7	11.3	16.0	9.1	12.0	14.0	12.7	0.94
		34	10.9	12.2	12.0	15.2	15.3	15.2	11.6	17.1	19.4	14.2	9.8	9.7	13.4	0.99
		35	10.2	13.5	17.7	14.2	10.6	7.2	8.9	11.9	8.7	8.9	6.5	7.5	10.5	0.78
		36	8.3	6.5	12.6	15.6	12.2	16.2	5.8	13.0	14.5	—	12.1	7.2	10.3	0.76
		37	7.6	7.4	10.1	13.6	12.1	14.4	11.7	6.3	7.6	—	11.4	6.7	9.9	0.73
		38	10.1	11.6	15.0	19.8	23.6	16.5	18.2	15.6	22.8	12.2	12.2	14.2	16.0	1.00
		39	15.3	23.8	16.7	10.4	12.2	—	18.2	20.2	19.0	17.8	12.0	15.6	17.8	1.11
住	神奈川工業 高等学校	32	11.7	12.4	27.4	4.9	—	—	—	—	—	14.5	9.9	10.6	13.1	1.00
		33	13.9	10.7	—	—	14.3	16.4	20.4	9.2	10.4	9.4	6.6	12.1	10.9	0.83
		34	7.2	9.7	8.7	11.7	8.6	12.7	8.5	11.8	11.9	11.0	9.7	8.4	9.9	0.76
		35	8.9	10.3	15.0	11.7	—	8.6	6.3	7.7	9.6	9.4	7.1	—	9.5	0.73
		36	—	5.1	11.4	9.0	9.7	9.9	5.1	—	16.3	—	10.2	7.8	9.4	0.72
		37	—	—	7.4	6.3	4.6	8.5	—	2.6	9.2	—	17.9	9.0	7.3	0.56
		38	10.1	11.6	15.0	19.8	23.6	16.5	18.2	15.6	22.8	12.2	12.2	14.2	16.0	1.00





地域	測 定 点	月 年	月												平均	昭和32 年に対 する比 率		
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12				
商    住	緑ヶ丘高等学校	32	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		33	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	7.7	7.3	10.2	—	—	—
		34	4.4	6.2	4.4	7.4	5.7	4.9	5.5	9.8	8.9	6.1	5.6	5.2	6.0	—	—	—
		35	4.7	4.6	7.1	5.2	8.6	7.3	3.8	8.1	5.8	5.2	5.8	4.6	5.9	—	—	—
		36	5.8	6.7	12.7	21.6	14.4	26.0	6.7	9.5	10.8	23.3	9.5	5.5	12.7	—	—	—
		37	6.5	6.6	12.1	9.2	8.0	15.0	9.0	5.6	6.2	—	9.3	6.4	9.5	—	—	—
		37	6.5	6.6	12.1	9.2	8.0	15.0	9.0	5.6	6.2	—	9.3	6.4	9.5	—	—	—
商    住	磯子警察署	32	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
		33	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	16.6	25.0	24.6	—	—	—
		34	30.1	36.1	39.4	11.1	14.3	9.2	—	13.0	13.1	13.9	9.2	3.9	11.0	—	—	—
		35	7.4	7.5	9.4	10.6	14.3	8.1	7.5	9.1	8.5	8.7	11.9	8.7	9.3	—	—	—
		36	7.7	7.6	14.4	9.4	8.9	11.2	3.9	8.6	10.1	13.2	9.2	7.2	9.3	—	—	—
		37	8.2	11.7	11.7	10.6	8.4	8.5	6.5	9.2	10.9	—	15.4	8.9	9.9	—	—	—
		37	8.2	11.7	11.7	10.6	8.4	8.5	6.5	9.2	10.9	—	15.4	8.9	9.9	—	—	—
商    住	杉田小学校	32	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
		33	—	—	—	—	—	—	—	—	—	9.6	6.7	8.6	—	—	—	
		34	4.8	6.7	10.8	9.2	8.8	7.5	5.6	7.5	9.4	5.1	8.0	6.4	7.5	—	—	—
		35	5.6	6.3	9.7	8.5	9.2	9.0	5.3	10.6	8.7	8.5	5.3	5.5	7.7	—	—	—
		36	7.5	4.0	11.8	10.2	6.9	11.2	6.3	8.6	10.9	20.8	15.4	9.7	10.3	—	—	—
		37	6.0	9.4	16.7	9.8	19.5	12.8	11.0	4.8	6.7	—	—	11.9	10.9	—	—	—
		37	6.0	9.4	16.7	9.8	19.5	12.8	11.0	4.8	6.7	—	—	11.9	10.9	—	—	—
商    住	電々公社 アパート	32	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
		33	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
		34	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
		35	4.4	5.3	5.2	6.9	9.5	4.5	3.6	5.6	6.8	4.7	4.1	3.5	5.3	—	—	—
		36	3.6	4.0	7.5	7.1	6.3	6.5	7.4	7.5	9.9	8.3	5.1	5.9	6.6	—	—	—
		37	4.3	8.2	6.9	6.1	5.8	6.9	4.6	2.4	6.7	—	8.9	12.3	6.6	—	—	—
		37	4.3	8.2	6.9	6.1	5.8	6.9	4.6	2.4	6.7	—	8.9	12.3	6.6	—	—	—
商    住	横浜高等学校	32	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
		33	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
		34	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
		35	4.8	6.4	8.5	7.4	7.8	4.4	5.5	10.5	5.1	8.6	6.7	4.4	6.7	—	—	—
		36	6.1	6.9	13.6	9.5	10.7	20.5	12.5	7.6	13.2	7.0	8.0	3.4	9.9	—	—	—
		37	5.5	4.4	8.1	5.9	3.8	5.2	3.1	2.3	6.5	—	13.7	6.1	5.9	—	—	—
		37	5.5	4.4	8.1	5.9	3.8	5.2	3.1	2.3	6.5	—	13.7	6.1	5.9	—	—	—



第3図

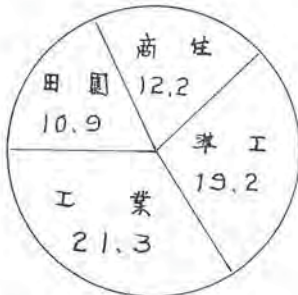
降下はい厘地域別年次比較

単位  $\text{ton}/\text{km}^2/\text{month}$ 

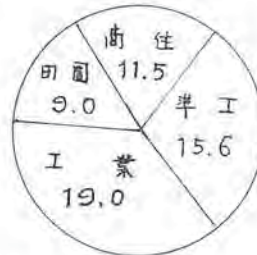
昭和32年1月～昭和32年12月



昭和35年1月～昭和35年12月



昭和33年1月～昭和33年12月



昭和36年1月～昭和36年12月



昭和34年1月～昭和34年12月



昭和37年1月～昭和37年12月

## (2) 鉄

降下ばい塵中の鉄量については昭和36年の9月から測定を開始したが、昭和37年の最高値は芝浦工機の4月における6.36 tで、8月、11月を除いて常に最高値を示している。工業地域の平均は1.10 t、準工業地域で0.62 t、商住地域で0.33 t、田園地域で0.27 tとなり工業地域は田園地域の約4倍、準工業地域で2.3倍となる。鶴見区内の測定点の芝浦工機をはじめとして味の素、保健所、旭硝子アパート、給電区、第一商業高校、国鉄アパート等、いずれも高い値を示している。

また不溶解性成分量に対する比率でも10%以上の高率であることは製鉄所からの影響を強く受けていることが推定される。他の地区で降下ばい塵量の多いところでも鉄分の比率は2.8~3.8%と低率になつている。

昭和36年の9月から12月までの測定値と昭和37年の同時期を比較すると多少減少の傾向がみられる。

第6表 降下ばい塵中铁量及び総量、不溶解性灰分に対する百分比

地域区分	月 測定点	ton/km <sup>2</sup> /month												A 平均	B 不溶解性 灰分量	C 降下ばい塵 総量	A/B %	A/C %
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12					
工業	芝浦工機	—4.80	6.31	6.36	2.86	2.90	—0.63	0.94	1.93	0.17	1.48	2.84	13.2	24.7	21.5	11.5		
	味の素	0.31	0.69	1.20	1.08	0.19	0.77	1.40	0.99	1.03	0.53	0.65	0.47	0.78	8.6	18.7	9.1	4.7
	日本ビクター	—0.45	0.64	0.55	0.28	0.02	0.45	0.27	0.55	0.13	0.23	0.39	0.36	3.6	10.6	10.0	3.4	
	中央市場	0.40	0.73	0.63	0.26	0.23	—0.71	0.33	0.54	0.11	0.28	0.40	4.4	10.7	9.1	3.7		
	平均	0.36	1.67	2.20	2.06	0.89	0.98	0.93	0.43	0.71	0.78	0.29	0.66	1.10	7.5	16.2	14.7	6.8
準工業	鶴見保健所	0.60	1.60	0.90	0.89	1.07	0.97	0.19	0.31	—0.35	0.07	0.44	0.62	7.4	14.7	8.4	4.2	
	旭硝子アパート	0.98	0.89	0.82	1.14	0.74	0.24	0.21	0.65	0.51	0.87	0.04	0.73	0.65	5.1	13.6	12.7	4.9
	国鉄鶴見給電区	—0.55	0.77	0.66	1.06	—0.49	0.47	0.65	0.53	0.30	0.34	0.58	5.6	12.3	10.4	4.7		
	平均	0.79	0.83	0.83	0.90	0.96	0.61	0.30	0.48	0.58	0.58	0.14	0.50	0.62	6.0	13.5	10.3	4.6
商業住宅	第一商業高校	0.49	2.94	1.34	—0.48	0.05	0.27	0.19	0.62	—0.32	0.16	0.69	6.2	13.3	11.1	5.2		
	国鉄アパート	0.75	0.67	0.47	0.87	—0.04	0.70	0.38	0.41	—0.26	0.21	0.48	3.4	9.9	14.1	4.9		
	神奈川工高校	—0.63	0.25	0.34	0.31	0.03	—0.02	0.39	—0.18	0.32	0.27	1.9	7.3	14.2	3.7			
	県立音楽堂	0.56	0.56	0.61	0.51	0.31	0.12	0.75	0.06	0.41	—0.54	0.28	0.43	5.8	11.4	7.4	3.8	
	平和球場	0.42	0.62	0.77	0.54	0.32	—0.07	0.26	—0.40	0.33	0.41	5.5	14.5	7.5	2.8			

地域区分	月 測定点													A	B	C		
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	平均	不溶性 灰分量	降下 塵総 量	A/B %	A/C %
商業 住宅	緑ヶ丘高校	0.28	0.29	0.48	0.36	0.09	0.27	0.13	0.30	0.25	0.31	0.39	0.18	0.28	2.6	9.5	10.8	2.9
	市衛研	0.35	0.54	0.43	0.29	0.20	0.33	0.18	0.09	0.15	—	0.53	0.25	0.30	3.7	9.9	8.1	3.0
	南保健所	0.30	0.38	0.43	0.38	0.30	0.15	0.20	0.10	0.20	0.23	0.31	0.24	0.27	3.8	9.6	7.1	2.8
	保土ヶ谷小	0.30	0.49	0.49	0.26	0.27	0.18	0.23	—	0.24	0.34	0.21	0.14	0.29	2.9	7.6	10.0	3.8
	磯子警察署	0.46	0.32	0.79	0.53	0.06	0.20	—	0.29	0.30	0.56	0.32	0.20	0.37	4.7	9.9	7.9	3.7
	杉田小学校	—	0.34	0.45	0.44	0.81	0.02	0.14	0.12	0.12	0.36	—	0.60	0.34	3.9	10.9	8.7	3.1
	電々公社 アパート	0.17	0.41	0.33	0.25	0.14	0.02	0.17	0.08	0.24	0.34	0.01	0.69	0.24	2.5	6.6	9.6	3.6
	横浜高校	0.25	0.19	0.34	0.28	0.08	0.02	—	0.18	0.29	—	0.07	0.30	0.20	2.3	5.9	8.7	3.4
	東急車輛	0.31	0.59	0.44	0.34	0.21	0.21	0.14	0.03	0.27	0.24	0.15	0.14	0.26	3.1	8.1	8.4	3.2
	ブリヂストン	0.23	0.08	0.28	0.23	0.03	0.09	0.12	0.02	0.09	—	0.09	0.10	0.12	1.8	5.9	6.7	2.0
	平均	0.38	0.60	0.53	0.40	0.26	0.12	0.26	0.15	0.28	0.34	0.27	0.28	0.33	3.6	9.4	9.2	3.5
田園	港北保健所	0.36	0.42	0.41	0.30	0.16	0.36	0.29	0.13	0.15	0.12	0.15	0.10	0.25	2.6	7.7	9.6	3.2
	綱島小	0.38	0.28	0.61	0.46	0.09	—	—	0.07	—	0.22	0.25	0.14	0.28	3.8	9.7	7.4	2.9
	平均	0.37	0.35	0.51	0.38	0.13	0.36	0.29	0.10	0.15	0.17	0.20	0.12	0.27	3.2	8.7	8.5	3.1
	総平均	0.42	0.61	0.84	0.75	0.45	0.34	0.34	0.30	0.39	0.48	0.25	0.35	0.49	4.5	11.0	10.9	4.5

### (3) 亜硫酸ガス

昭和36年に引き続き二酸化鉛法による亜硫酸ガスの測定を実施したが、測定点は前年と同様に工業地域4箇所、準工業地域3箇所、商住地域7箇所である。(第1図参照)その成績は第7表のとおりである。

最高値は味の素横浜工場の8月における4.07mg、最低は横浜高校の10月における0.07mgとなつているが、年間平均では工業地域の0.83~2.13mg(平均1.35mg)、準工業地域で0.31~0.98mg(平均1.34mg)、商住地域で0.31~0.98mg(平均0.73mg)で、工業、準工業地域は商住地域の約1.8倍となつている。商住地域においても0.5mg以上の値を示しているのが多く認められることは相当広く汚染が及んでいることを示しているものと考えられる。

測定を開始した昭和32年からの成績を年次別、月別に示したのが第8表であるが全体的に漸次増加の傾向が認められる。

第7表 亜硫酸ガス測定成績（二酸化鉛法）

昭和37年1月～12月  $\text{mgSO}_3/\text{day}/100\text{cm}^2\text{PbO}_2$ 

地域区分	測 定 点	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	平均
工業地域	芝 浦 工 機	0.56	0.51	0.92	1.13	0.84	0.89	1.17	1.46	—	3.57	3.40	3.40	1.41
	味の素横浜工場	0.49	0.36	1.01	1.41	1.48	1.81	2.86	4.07	3.48	2.80	3.43	3.37	2.13
	ビクター入江工場	0.45	0.32	0.51	0.63	0.53	0.87	1.50	1.24	1.62	0.67	2.96	0.90	1.01
	中央卸売市場	0.38	0.36	0.66	—	0.45	0.72	0.92	0.90	0.94	1.28	1.65	—	0.83
	平 均	0.47	0.39	0.78	1.06	0.83	1.32	1.61	1.92	2.01	2.08	2.86	2.56	<del>1.35</del> 1.44
準工業地域	鶴見保健所	0.52	0.52	0.58	1.10	1.09	1.35	2.13	2.60	2.53	0.84	3.51	1.79	1.55
	旭ガラス平安アパート	0.37	0.39	0.83	0.91	1.08	1.27	2.10	2.78	2.88	1.25	2.30	2.02	1.52
	国鉄鶴見給電区	0.44	0.38	0.62	0.69	0.63	0.83	1.24	1.05	1.50	1.39	1.84	—	0.96
	平 均	0.44	0.43	0.68	0.90	0.93	1.15	1.82	2.14	2.30	1.16	2.55	1.91	1.34
商業住宅地域	第一商業高校	0.34	0.29	0.59	0.86	1.00	0.91	1.53	1.33	1.31	0.87	1.74	1.00	0.98
	神奈川工業高校	0.26	0.28	0.99	0.34	0.40	0.48	0.65	0.53	0.88	0.59	—	—	0.56
	横浜市衛研	0.33	0.33	0.56	0.36	0.36	0.51	0.48	0.46	0.55	2.61	1.95	1.77	0.94
	緑ヶ丘高校	0.49	0.53	0.26	0.95	0.70	0.79	1.08	0.87	1.58	0.74	1.53	—	0.87
	磯子警察署	0.40	0.32	0.68	0.49	0.42	0.47	0.77	0.52	0.88	1.55	2.42	2.69	0.97
	杉田小学校	0.31	0.24	0.35	0.41	0.23	0.33	0.27	0.22	0.54	1.07	1.05	0.63	0.47
	横浜高校	0.30	0.21	0.35	0.30	0.18	0.21	0.25	0.33	0.26	0.07	0.84	0.44	0.31
	平 均	0.35	0.31	0.54	0.53	0.47	0.53	0.72	0.61	0.86	1.07	1.59	1.31	0.73
總 平 均	0.40	0.36	0.64	0.74	0.67	0.82	1.21	1.28	1.46	1.12	2.21	1.08	1.04	

第8表 亜硫酸ガス年次別測定成績（二酸化鉛法）

 $\text{mgSO}_3/\text{day}/100\text{cm}^2\text{PbO}_2$ 

地域区分	測 定 点	月 年	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	平均
			工 業	芝浦工機株式会社	34	3.45	3.26	2.37	1.44	1.65	1.23	0.71	1.03	—	1.99
35	0.73	1.08	1.18		1.19	1.50	0.56	0.76	1.01	1.40	2.48	2.12	1.96	1.33	
36	1.07	1.22	1.50		1.41	0.87	0.74	0.81	0.75	0.68	1.45	—	0.91	1.04	
37	0.56	0.51	0.92		1.31	0.84	0.89	1.17	1.02	1.46	—	3.57	3.40	1.41	

地域 区分	測 定 点	月 年	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	平均
			工 業	味の素横浜工場	34	2.35	2.26	1.76	1.66	1.57	1.22	1.11	1.53	1.63	
35	0.71	0.81	0.93		1.51	1.60	0.48	0.84	1.12	1.33	1.55	1.80	1.58	1.19	
36	0.75	1.14	1.75		2.35	2.33	1.82	1.74	1.87	1.82	1.79	1.35	1.15	1.66	
37	0.49	0.36	1.01		1.41	1.48	1.81	2.86	4.07	3.48	2.80	3.43	3.37	2.13	
工 業	日本ビクター 入江工場	34	1.59	1.63	1.22	1.23	1.31	0.98	1.04	1.29	1.80	1.04	0.81	0.91	1.15
35		0.53	0.78	0.96	0.92	0.89	0.33	0.78	0.74	0.59	0.60	0.72	1.07	0.74	
36		0.60	0.85	0.99	0.93	0.84	0.75	1.10	1.02	0.92	0.85	0.81	0.75	0.87	
37		0.45	0.32	0.51	0.63	0.53	0.87	1.50	1.24	1.62	0.67	2.96	0.90	1.61	
工 業	中央卸売市場	34	1.06	1.31	—	1.01	0.96	0.71	1.15	0.64	—	0.87	0.84	0.77	0.93
35		0.51	0.66	0.72	0.75	0.86	0.41	0.34	0.57	0.72	0.89	0.72	0.93	0.67	
36		0.64	0.66	0.92	0.87	0.64	0.56	0.63	0.71	0.79	0.80	0.97	0.80	0.75	
37		0.38	0.36	0.66	—	0.45	0.72	0.92	0.90	0.94	1.28	1.65	—	0.83	
準 工	鶴見保健所	34	1.61	1.94	1.91	1.69	1.41	1.64	1.56	1.61	—	1.64	0.89	0.93	1.53
35		0.59	0.91	0.85	1.14	1.11	0.43	0.82	0.99	1.04	1.03	1.26	1.26	0.95	
36		1.07	0.88	1.34	1.41	1.45	1.19	1.41	1.35	1.25	1.29	1.15	1.07	1.24	
37		0.52	0.52	0.58	1.10	1.09	1.35	2.13	2.60	2.53	0.84	3.51	1.79	1.55	
準 工	旭硝子平安アパート	34	1.63	1.73	1.82	1.62	1.49	1.53	1.52	2.73	1.45	—	1.16	0.99	1.61
35		0.68	0.72	0.87	1.13	1.26	0.58	0.87	1.16	1.02	1.00	1.15	1.33	0.98	
36		1.11	0.95	1.38	1.56	1.49	1.20	1.41	1.40	1.46	1.27	0.57	1.24	1.25	
37		0.37	0.39	0.83	0.91	1.08	1.27	2.10	2.78	2.88	1.25	2.30	2.02	1.52	
準 工	国鉄鶴見給電区	34	1.40	1.14	1.35	1.14	1.23	1.10	0.61	—	0.87	1.09	0.97	1.03	1.08
35		0.58	—	0.80	0.81	0.77	0.32	0.65	0.68	0.73	0.90	0.92	1.22	0.76	
36		0.85	0.82	0.98	1.35	0.94	0.91	1.04	0.95	0.81	—	0.79	0.95	0.94	
37		0.44	0.38	0.62	0.69	0.63	0.83	1.24	1.05	1.50	1.39	1.84	—	0.96	
商 住	第一商業高等学校	34	0.79	0.75	0.74	0.66	0.70	0.64	0.63	0.39	0.79	0.38	0.49	0.62	0.63
35		0.30	0.42	0.58	0.66	0.65	0.60	0.57	0.64	0.56	0.47	0.52	0.67	0.55	
36		0.54	0.52	0.67	0.73	0.69	0.66	0.76	0.85	0.81	0.98	1.36	0.86	0.79	
37		0.34	0.29	0.59	0.86	1.00	0.91	1.53	1.33	1.31	0.87	1.74	1.00	0.98	



地域 区分	測 定 点	月 年	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	平均
			商 住	神奈川工業高等学校	34	0.66	0.89	0.54	0.69	0.41	0.61	0.69	0.75	0.46	
35	0.28	0.43	0.40		0.47	0.46	0.31	0.34	0.39	0.36	0.37	0.42	—	0.38	
36	—	0.47	0.49		0.37	0.42	—	0.45	0.41	0.41	0.47	0.52	0.66	0.47	
37	0.26	0.28	0.99		0.34	0.40	0.48	0.65	0.53	0.88	0.59	—	—	0.56	
商 住	緑ヶ丘高等学校	34	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
35		—	—	—	—	—	—	—	—	0.45	0.75	1.38	0.95	1.36	0.98
36		1.00	0.68	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
37		0.47	0.53	0.26	0.95	0.70	0.79	1.08	0.87	1.58	0.74	1.53	—	0.87	
商 住	横浜市衛生研究所	34	0.97	0.82	—	0.49	0.50	0.63	0.32	1.50	0.68	0.79	0.73	0.80	0.75
35		0.39	0.48	0.52	0.62	0.48	0.22	0.27	0.29	0.38	0.67	0.70	0.73	0.48	
36		0.86	0.53	0.59	0.52	0.35	0.30	0.41	0.39	0.49	0.72	0.87	1.17	0.60	
37		0.33	0.33	0.56	0.36	0.36	0.51	0.48	0.46	0.55	2.61	1.95	1.77	0.94	
商 住	磯子警察署	34	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
35		—	—	—	—	—	—	—	—	0.35	0.47	0.76	1.12	1.42	0.82
36		1.08	0.87	1.47	0.72	0.34	0.35	0.41	0.45	0.57	0.78	0.86	0.83	0.73	
37		0.40	0.32	0.68	0.49	0.42	0.47	0.77	0.52	0.88	1.55	2.42	2.69	0.97	
商 住	杉田小学校	34	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
35		—	—	—	—	—	—	—	—	0.17	0.26	0.46	0.50	0.52	0.38
36		0.47	0.42	0.50	0.29	0.22	0.19	0.22	0.24	0.49	0.67	0.62	0.57	0.41	
37		0.31	0.24	0.35	0.41	0.23	0.33	0.27	0.22	0.54	1.07	1.05	0.63	0.47	
商 住	横浜高等学校	34	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
35		—	—	—	—	—	—	—	—	0.14	0.25	0.41	0.49	0.57	0.37
36		0.44	0.41	0.51	0.34	0.24	0.16	0.17	0.14	0.18	0.35	0.46	0.53	0.33	
37		0.30	0.21	0.35	0.30	0.18	0.21	0.25	0.33	0.26	0.07	0.84	0.44	0.31	

## (4) 総括

ア 市内の降下ばい塵量は最近6年間の傾向として大体減少の傾向をたどっているが、地域別に検討すると昭和32年の工業地域の平均が20.7 t から昭和37年には16.2 t と20.9%、準工業地域で19.8 t から13.5 t と31.8%、商住地域で15.5 t から9.4 t と39.4%、田園地域で10.2 t から8.7 t と14.7%の減少を示している。

イ 降下ばい塵中の鉄量については測定を開始して間もないので、はつきりした傾向はつかめないが昭和36年の同時期と比較すると多少減少の傾向がみられる。(某製鉄所の一部に集塵装置が完成した。)

ウ 亜硫酸ガスは降下ばい塵量とは逆に、むしろ増加の傾向が認められる測定点が多くなっている。

エ 横浜气象台において測定した風向頻度を第11表に示したが、昭和36年と同様に夏季においてはS. SSWが多く冬季にはN. NNWが多くなっている。

第9表 風 向 頻 度

昭和37年1月~12月(月平均)

風向 月別	N	NNNE	NE	ENE	E	ESE	SE	SSE	S	SSW	SW	WSW	W	WNW	NW	NNW	C
1	13.3	2.4	4.8	4.2	3.2	3.1	1.2	0.4	1.2	0.4	2.2	7.8	4.0	3.5	13.0	34.8	0.4
2	34.8	1.9	2.4	5.1	8.6	4.0	2.1	1.5	1.9	2.1	5.8	4.9	4.3	0.7	4.8	14.9	0.1
3	22.7	6.5	2.6	4.0	5.0	5.0	3.1	4.0	4.3	4.8	6.9	7.3	4.3	2.0	5.2	11.2	1.2
4	19.4	4.3	6.3	6.5	6.0	3.5	3.6	4.7	8.8	8.9	8.1	2.5	2.2	2.4	4.6	7.9	0.4
5	6.9	3.6	4.7	3.1	8.1	5.4	3.5	4.7	11.0	11.3	11.4	4.6	3.6	1.3	5.0	10.5	1.3
6	17.6	6.5	5.3	8.8	10.4	4.7	2.2	1.8	7.1	11.8	12.6	4.0	1.7	0.4	1.0	3.3	0.7
7	6.5	3.2	8.6	7.3	7.4	1.6	2.4	5.9	14.5	16.4	8.2	3.1	3.9	1.1	1.9	7.0	1.1
8	7.4	1.1	3.8	4.6	5.5	1.9	2.0	5.9	17.6	25.9	11.3	3.1	1.7	0.9	1.7	5.0	0.5
9	14.3	2.9	4.3	9.2	9.2	4.4	1.9	3.2	8.3	15.3	6.5	3.2	0.7	0.6	5.1	10.1	0.1
10	14.0	3.8	7.3	10.5	4.7	3.0	1.1	0.9	2.6	0.7	1.2	0.5	0.4	2.3	7.1	40.1	0
11	20.6	2.8	4.4	3.5	3.9	2.4	0.8	0.4	0.7	0.6	3.2	1.9	0.6	1.1	7.6	44.6	1.0
12	8.2	3.9	5.1	3.6	2.4	1.3	0.1	1.2	2.6	1.5	4.3	2.6	0.8	3.8	18.5	39.1	0.9

横浜地方气象台調

## 第2 学童の健康調査

### 1 緒 言

大気汚染が及ぼす影響については、いろいろと論ぜられ、また被害を与えつつあるほか特に住民の健康に及ぼす影響については、人体の固体差、地形、気象等の条件、その他いろいろの因子が関係してくるので健康障害の診断については難かしい問題である。現在この問題はいろいろの形で各方面からとりあげられて、その実態が明らかにされつつあるが本市では昭和37年の7月、8月にわたりいくつかの問題について調査、検討を試みたのでその概要について報告する。

### 2 調査方法

大気汚染の健康との関連を調査するとなると非常に広範囲にわたり時間と労力のかかる仕事であるが、今回は次に述べるとおりのいくつかに焦点をしばつてみた。

#### (1) 調査地域

調査対照として市内の小学校の中から3校を抽出した。

##### ア 平安小学校

平安小学校（以下「H校」と略す。）は京浜工業地帯の一劃をなしている鶴見区の重工業地帯に隣接している小学校で周囲に工場の煙突が林立しているような学区域である。

##### イ 杉田小学校

杉田小学校（以下「S校」と略す。）は市の南東部に位置する磯子区にあり東は海で三方を丘陵地に囲まれている商住地帯であるが、最近海岸（根岸湾）の埋立工事が進捗し2～3年のうちに石油精製工場などを含む工業地帯となる学区域である。

##### ウ 川上小学校

川上小学校（以下「K校」と略す。）は、戸塚区にあり南は丘陵地、北は平地で、国道一号線（東海道）に面している地域で、最近相当数の工場が進出して従来の田園地域が工場によつて浸潤をうけつつあるところであるが、工場の内容はいわゆる軽工業的な近代施設のものが多き地域である。

以上それぞれ特徴のある地域であるが、現在までの状態でH校を工業地域、S校を商住地域、K校を田園地域の代表として抽出した。

## (2) 調査項目

### ア 浮遊粉塵

大気汚染測定の一指標として各小学校に濾紙式空気汚染計を設置して12日間にわたって測定した。場所はそれぞれ屋上に設置して、できるだけ地上からの影響を除外するようにした。

### イ 粒度分布

三地区における浮遊粉塵の粒度分布の状態を知るため7月13日午前7時から、2.5時間間隔で5回にわたりインピンジャーにて吸引捕集し、コールターカウンターにて粒度の分布状態を検査した。

### ウ 学童健康調査

三校の学童の健康状態をアンケート方式によつて各校全児童にアンケート用紙を配布し、保護者に記入してもらった。

#### (ア) 学童を対照とした理由は

- a 周囲からの影響を受けやすく環境に敏感なこと
- b 回収に便利なこと
- c 事業所その他による影響が少ないこと

等の理由による。

#### (イ) アンケートの内容は

- a 生活環境条件について
- b 上気道疾患を中心としたアレルギー、大気汚染と関係あると考えられる疾患等について既往症と現在の状態について
- c 一般の発育状態
- d 特に喘息について

などに分類できる。

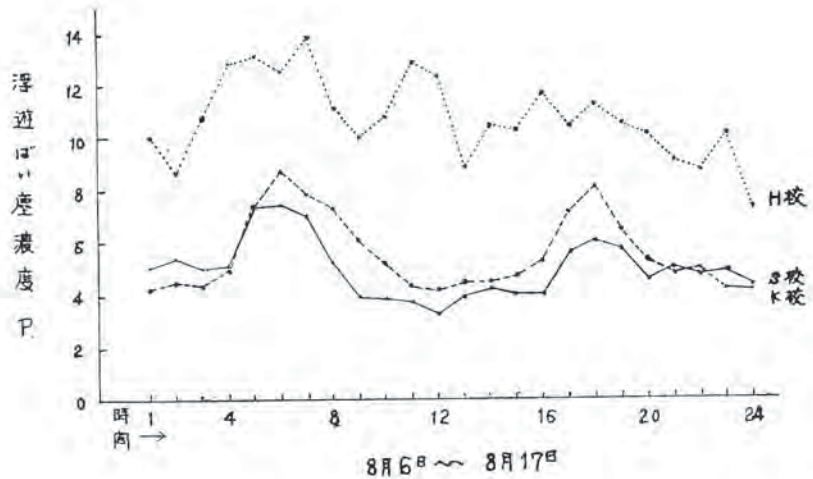
## 3 調査結果

### (1) 浮遊粉塵

浮遊粉塵を測定したのは8月6日から17日までの12日間であるが、12日間の平均の時間的変動をみると第4図に示すとおりで、H校が汚染度は高く、他の2校の測定値との間に有意の差が認められた。S校とK校の間には有意差は無い。S校とK校は早朝と夕刻にピークが認められるが、H校は日別の観測ではピークが3回から4回でることがある。

第4図

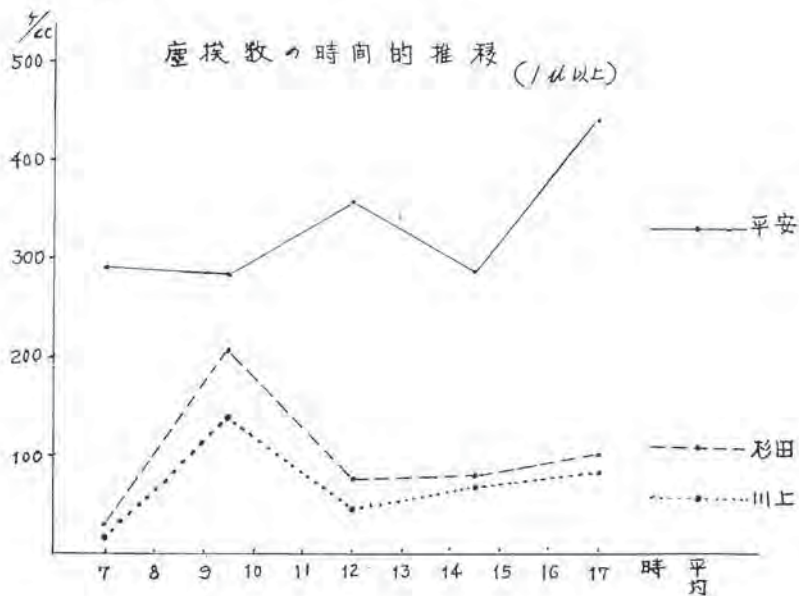
## 浮遊ばい塵濃度平均値



## (2) 粒度分布

インピンジャーによつて測定した粉塵の状態は1ミクロン付近の粒子が多いようで、時間的には第4図の浮遊粉塵のピークとほぼ一致するようである。ただ今回は1日だけの測定であると同時に1ミクロン以下の粒子が分析できなかったがその時間的推移は第5図に示すとおりである。

第5図



### (3) 学童健康調査

アンケートの回収率は平均93.2%でその総数は3,212人となっている。内訳はH校の1,156人、S校の1,126人、K校の930人であつた。これらについて統計学的検討を加えたのでその概要を述べてみる。

#### ア 生活環境条件について

(ア) 第10表のようにH校ではほとんど平地であるに対し、S校、K校は高台や谷間に住んでいる者もある。

また日当りについては何れも81%以上が良いと答えている。

(イ) 100m以内に工場が有るか無いかについては、H校で51.8%、S校8%、K校43.6%となつているが、煙に対する意識はH校で69.3%、S校で5.5%、K校25.5%、また煙がくさいと答えた者はH校で26.3%、S校4.2%、K校7.3%で、いずれもH校の学区域ではばい煙の存在を常に意識して生活している者が多いことになる。

#### (ウ) 居住地の状況は

住宅地 平安>杉田>川上

商業地 杉田>平安>川上

工場街 平安&gt;川上&gt;杉田

農漁地 川上&gt;杉田

となつており、K校はS校と比較して工場が多いが同時に農地も多く住宅地と農地との和はS校とK校ではほとんど変化ない。

(エ) 移転による健康の変化を調べる目的で移動状況を調査したのであるが、その結果は第11表のようで大きな差は無く、三地区ともほぼ半数近くが移転を経験している。

(オ) 人家の疎密度について密であると答えた者はH校の79.8%に対し、S校の48.6%、K校の27.7%と有意差が認められる。その結果は第12表のとおりである。

第10表 生 活 環 境

質	問	H校	S校	K校	質	問	H校	S校	K校					
現在住んでいる ところは	高台	%	%	%	煙は	くさい	%	%	%					
		0.2	26.6	32.5		26.3	4.2	7.3						
		平地	93.6	61.3		58.8	くさくない	43.5	15.1	28.4				
	谷間	0	7.9	5.5	他	30.2	80.7	64.3	住居地は	住宅地	73.4	65.5	40.7	
		不明	6.2	4.2		3.2	商業地	9.5		14.0	1.5			
	日当り良 悪 他	86.7	81.2	89.6	工場街	9.1	0.1	5.9		農漁地	0	12.5	37.1	
		9.7	15.3	6.0	他	8.0	7.9	14.3		周囲の人家は	密	79.8	48.6	27.7
		3.6	3.5	4.4	疎	6.7	35.7	58.3						
	乾燥地	3.2	11.8	9.2	他	13.5	13.4	14.0						
	湿地	5.9	5.1	8.4	現在住んでいる ところに	1年未満	6.7	7.2	12.9					
	普通	85.5	77.8	77.5		1~3年	11.8	11.0	8.9					
	他	5.4	5.3	4.9		3.1~5年	8.6	11.4	7.5					
100m以内に 工場が	有	51.8	8.0	43.6		5.1年以上	25.3	25.0	16.7					
	無	42.1	84.4	51.5		出生より	45.3	42.7	50.6					
	他	6.1	7.6	4.9	不明	2.3	2.7	3.3						
工場の煙が	多い	32.1	0.4	2.4	生れてから	移転した	47.3	45.7	38.6					
	多少ある	37.2	5.1	23.1		移転しない	46.6	39.7	14.4					
	ない	19.3	60.7	52.1		不明	6.1	14.4	14.5					
	他	11.4	33.8	22.4										

第11表 生れてから移転したか

	生れてから移転した	移 転 し な い	不 明
H 校	47.3 %	46.6 %	6.1 %
S 校	45.7	39.7	14.4
K 校	38.6	46.9	14.5

第12表 人 家 の 疎 密 度

	密 である	疎 である	そ の 他
H 校	79.8 %	6.7 %	13.5 %
S 校	48.6	35.7	15.7
K 校	27.7	58.3	14.0

## イ 既往症と現症について

## (ア) 既往症について

既往疾患についての結果は第6図に示すとおりで、統計学的には、結核については、H校とS、K校、蓄膿症はH校とK校、喘息はH校とK校、結膜炎はH、K校とS校の間に有意が認められたが他については差がなかつた。

もちろん、これらについては、いろいろの条件を考慮しなければならないが呼吸器系の疾患の一因としての生活環境を否定することはできないだろう。

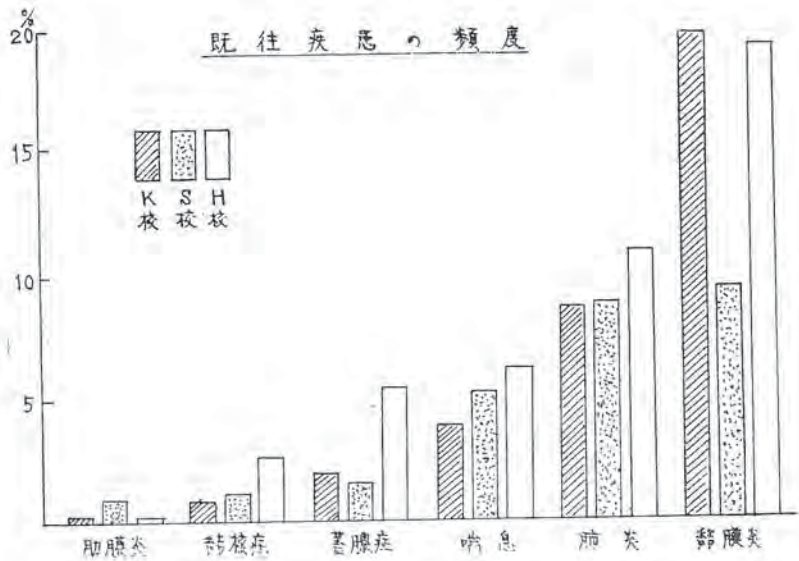
学年別について喘息では低学年から高学年になるにしたがつて比率は低下してくる傾向がある。結膜炎は逆の傾向であるが他の疾患では学年による差は不明確である。

また曝露年数別（現住地居住年数）で分類してみると、喘息についてはS校



K校とも新しい移動者ほど比率が高くなるに反し、H校では長い居住者ほど高くなっている。

第 6 図



(イ) 現症について

現症についての調査結果は、第7図のとおりで、いずれもH校に対しS、K校、またはK校との間に有意差が認められた。アンケートであるから記入者の主観的な判断の差はあるにしても概してH校が異常率は高くなっている。

学年別については、かぜにかかりやすいか、せきがでやすいかの項目は顕著に低学年ほど高率になつている。特にH校では低学年の異常率が顕著である。他の項目では年令的变化はあまり認められなかつた。

曝露年数については特別な変化は認められなかつた。

(ウ) 移転してきてからの学童の健康について

この項目は特に気が付いたことがあれば記入してもらつたのであるが、H校で22人、S校33人、K校21人であつた。

その内容は第13表のようでH校の比率が高くなっている。

H校の学区の環境が健康状態に何等かの影響を与えていることが考えられる。

(ニ) 一般の発育状態

一般の発育状態を調査するための身長、体重、胸囲を測定したのであるが、その結果は第14表のとおりで、女子の体重を除きいずれもS校>K校>H校の順位となつている。

(オ) 特に喘息について

喘息についての質問内容及び答は第15表のとおりで、その概要は次のようである。

質問の(a)についてはH校が他の疾患と同様に一番多い。

(b)では、K校だけが朝発作の来るのが認められ、大部分は夜または不定である。

(c)では冬はいずれの地区にも認められる。

(d)では、原因のはつきりしているのは天候だけである。

(e) H校では学校を休まないものが多い。

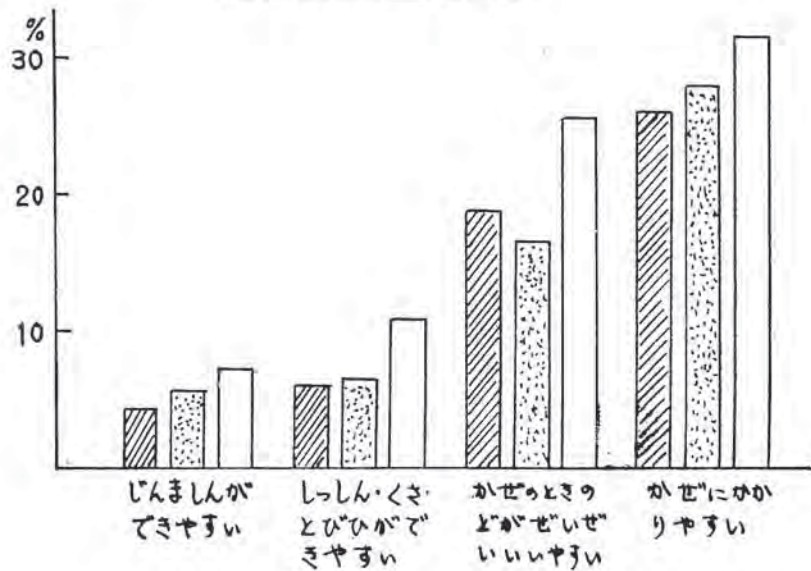
(f) よその土地では発作のおこらない者の割合がH校で多くなつている。これは環境が誘因となつていることが原因であろう。

(g) H校では移動しなかつた者に多くでている。

(i) H校は近親者に喘息患者がいないという例が多く、S校は逆であるが、これは環境因子が大きな役割を果しているのであろう。H校とS校との間に有意差が認められた。

第 7 図

## 現 症 の 頻 度



第13表 移転後の健康の変化について

		H 校	S 校	K 校
移転後子供の健康に変化があったか	有	22 人	33 人	21 人
その状態は	良くなった	3	25	17
	悪くなった	19	8	4
その内容は	良くなった	・かぜをひかなくなつた	・かぜをひかなくなつた ・ぜんそくがよくなつた	
	悪くなった	・かぜにかかりやすくなつた ・ぜんそくになつた ・眼の病気にかかりやすくなつた	・かぜにかかりやすくなつた ・ぜんそくになつた	

第14表 発育状況の比較

区分	学年	性別	H 校	S 校	K 校	全国平均
身長 cm	1	男	111.7	114.1	112.2	110.9~117.3
		女	110.1	112.7	112.0	110.2~115.8
	6	男	138.4	139.4	138.6	136.2~141.9
		女	139.7	140.8	139.8	137.4~144.0
体重 kg	1	男	18.6	19.7	19.2	18.99~21.10
		女	18.0	18.9	18.8	18.19~20.28
	6	男	31.6	32.8	31.9	30.66~34.58
		女	33.0	32.8	33.0	31.74~36.60
胸囲 cm	1	男	55.2	56.5	56.8	56.4~58.6
		女	53.8	55.2	54.7	55.0~56.8
	6	男	66.5	68.1	66.5	66.0~69.0
		女	66.1	66.8	66.0	66.0~69.8

第15表 喘息について

質 問	答	H 校	S 校	K 校
(a) お子さんは喘息にかかっていますか	はい	19人	17人	13人
	いいえ	904	864	735
(b) 発作はいつおこりますか	朝	0	0	3
	昼	0	0	0
	夜	3	9	3
	不定	12	7	6
(c) 発作のおこる季節はいつですか	春	2	1	2
	夏	0	1	1
	秋	0	3	1
	冬	6	5	7
	いつでも	1	0	1
	不定	6	7	1

質 問	答	H 校	S 校	K 校
(d) 発作の原因はなんですか	天 候	8	10	6
	食 物, 薬	0	0	0
	そ の 他	0	0	2
	原因不明	7	3	3
(e) 発作のとき学校を休みますか	は い	7	14	7
	い い え	10	2	3
(f) よその土地で発作はおこりますか	は い	2	4	1
	い い え	6	2	4
	不 明	9	10	5
(g) 出生後転居しましたか	し た	6	10	4
	し な い	13	4	8
(h) 大体 100m以内に工場があるか	あ る	9	2	6
	な い	10	14	4
(i) 近親者に喘息患者がいますか	い る	6	8	5
	い な い	13	3	6

#### 4 総 括

(1) 浮遊ばい塵量はH校が圧倒的に多くその変動は早朝及び夕刻にピークが認められる。

(2) アンケートによる健康調査では汚染のはげしいH校がいろいろの症状で頻度が高く平均欠席日数も多い。

今回の調査では浮遊粉塵とアンケートによる健康調査であつたので、いろいろと不明確な点があることはもちろんであるが、今後さらに系統的な調査を実施して住民の健康に対する大気汚染の影響を把握していく必要があるであろう。

(注) H校は、降下ばい塵及び亜硫酸ガス測定点旭硝子アパートに近接している。

S校は、降下ばい塵及び亜硫酸ガス測定点である杉田小学校である。

K校は、降下ばい塵測定点ブリヂストンアパートに近接している。

## 第3 公 害

### 1 緒 言

産業の発展と人口の都市集中化にともない近年公害の発生件数は逐次増加を示し、その発生原因も多種多様となりつつある。

公害問題として処理されるものは、多くが、中小企業の作業行程または排出物等から発生するもので、種々の理由、例えば経済的問題、工場の立地条件、感情問題の介入などにより解決を困難にしているものがある。

本市では昭和36年5月19日付けで、神奈川県事業場公害防止条例に基づく事務の一部を市長に委任され、公害問題に対する業務を行なってきたが、県条例該当施設及び該当外の施設についても公害問題の受付の窓口を各保健所とし、調査、指導を行ない技術的な問題については、衛生研究所職員の応援により、すみやかに解決するよう努力しているが、解決困難なものは昭和35年12月に設置された横浜市公害対策委員会に対し、指導方針、解決方法などを諮問して加害者側、被害者側に納得のいく解決のできるよう努めている。

### 2 処 理 状 況

昭和37年に発生した件数は県条例に該当の施設（物の製造、加工、修理等）からのものが94件、条例該当外の施設からのものが27件、その他に前年から未解決のまま、繰り越された件数がそれぞれ59件と11件あつたので処理件数は、総数で191件となつている。

この中で解決したものが、条例該当施設で55件（35.9%）、該当外施設で20件、52.7%となつている。条例該当のものでは、騒音問題が一番多く42件、次に悪臭（有臭性のガスを含む）の19件、ばい煙の16件となつている。

条例該当外のものでは、悪臭（主として畜舎）の9件で、総件数の32%となつている。

次に、ばい煙の6件（主として公衆浴場）となつている。

これを発生原因別に見ると、第16表、第17表のとおりである。

県条例委任後の昭和36年6月から昭和37年12月までの用途地域別、種類別の発生件数は第18表のとおりで、騒音の96件（47.5%）、ばい煙の30件（14.9%）、悪臭の29件（14.4%）以下粉塵、振動、廃液、ガスの順で、総数202件となつている。

用途地域別にみると、住宅地域がもつとも多く、101件で50.0%、次に準工業地域の44件21.8%、商業地域37件18.3%となつている。

住宅地域での発生種別は騒音がもつとも多く、ついで悪臭、ばい煙、振動となつているが、商業地域では騒音、振動、ばい煙となり、準工業地域では騒音、ばい煙、悪臭、粉塵となつている。いずれも騒音問題がもつとも多く、特に住居が開放される夏期に訴えが多くなつている。

また、騒音について昭和36年6月から昭和37年12月までの発生原因別の分類をしてみると、第19表のとおり、機械工場関係の25%、プレス、板金作業関係の22.9%で約半数を占めている。

第16表 公害問題発生解決件数表（保健所別種別）

（県条例該当のもの）

昭和37年1月～12月

保健所		騒音			振動			廃液			ばい煙			ガス			粉じん			悪臭			その他			合計				
		A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C		
鶴見	A	10			3						7		1			2			7							30				
	B		9								2																11			
	C			5			1									1					3							10		
神奈川	A	3											1						3							7				
	B															1			1								2			
	C			2											1						1							4		
西	A	7			1			1			2								4							15				
	B		7			2				1						1											11			
	C			7					1				3								3							14		
中	A	3			2					1						1			2							9				
	B																													
	C			1			1						1									2						5		
南	A	12								2						1			1							16				
	B		3								1						1			1						6				
	C			1																								1		
保ヶ土谷	A	4								1									2							7				
	B		3			1			1							1											6			
	C			2																	1							3		
磯子	A	2						1			2															5				
	B		3			3					2					1				2							11			
	C			6			2			1			6									1							16	
金沢	A																													
	B		4						1																					
	C																													
港北	A							1						2													3			
	B								2																			2		
	C									1																			1	
戸塚	A	1									1																2			
	B		2						3																			5		
	C			1																									1	
計	A	42			6			3			16			4				4			19					94				
	B		31			6			7			6						5			4					59				
	C			25			4			3			10			1			1		11					(153)		55		

注 Aは本年度発生件数 Bは前年度未解決繰越件数 Cは本年中の解決件数



第17表 公害問題発生解決件数表（保健所別種別）

（県条例該当外のもの）

昭和37年1月～12月

保健所		騒音			振動			廃液			ばい煙			ガス			粉じん			悪臭			その他			合計					
		A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C			
鶴見	A							1			1																		2		
	B																														
	C												1																		1
神奈川	A																														
	B																														
	C																														
西	A	2									3					1		2								1			8		
	B		1			1												3									1		6		
	C			2									1				1				2										6
中	A	1									2																		3		
	B																														
	C			1									1																		2
南	A																														
	B																														
	C																														
保ヶ土谷	A							1										4				3							8		
	B															1		1											2		
	C									1									2								3				6
磯子	A																	1				1							2		
	B																				1									1	
	C																					1									1
金沢	A																														
	B																														
	C																														
港北	A																														
	B																														
	C															1															1
戸塚	A							1										2				1							4		
	B								1																					1	
	C									1											2						1				4
計	A	3						3			6					1		9				5							27		
	B		1			1			1							2		5									1			11	
	C			3						2			3				1		7							4	(38)			20	

注 Aは本年度発生件数 Bは前年度未解決繰越件数 Cは本年中の解決件数

第18表 用途地域・種類別発生件数（県条例該当のもの） 昭和36年6月から37年12月まで

用途地域	騒音	振動	廃液	ばい煙	ガス	粉じん	悪臭	その他	計 (%)
住宅	52	10	5	11		6	17		101 (50.0%)
商業	20	5	1	5		3	3		37 (18.3%)
準工	22	1	2	10	1	4	4		44 (21.8%)
工業	2			4	3	4	4		17 (8.4%)
無指定			2				1		3 (1.5%)
計	96 (47.5)	16 (7.9)	10 (5.0)	30 (14.9)	4 (2.0)	17 (8.4)	29 (14.4)		202 (100.0%)

第19表 発生原因別分類（騒音） 県条例該当のもの 昭和36年6月から37年12月まで

分類	件数	小計	%
鉄工場 自動車修理整備 機械工場 グラインダー	8 4 10 2	24	25.0%
プレス 製缶 板金型 成延	5 5 7 4 1	22	22.9%
ボイラー (捺染工場を含む)	9	9	9.4%
熔接切断	8	8	8.3%
製菓 食品	6 2	8	8.3%
印刷	5	5	5.2%
その他 (排風器, ミシン, 土木, 木工, その他)	20	20	20.8%
計	96	96	100.0%

### 3 騒音防止条例関係

横浜市騒音防止条例は街頭の拡声放送，電蓄，ラジオ，テレビ等による騒音の取締りを主としたもので，県警察部で主管しているが，拡声放送等の届出及び取締状況等については第20表に示すとおりで，もつとも多いのが風俗営業に起因するものである。

第20表 横浜市騒音防止条例取締等報告状況

条例第3条による届出 及び第7条に基づく承 認件数	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
	届出	43	32	32	56	68	53	45	71	58	52	40	49	599
	承認	8	2	2	9	26	10	92	475	104	29	7	132	896
	計	51	34	34	65	94	63	137	546	162	81	47	181	1,495

条例に基づく指導取締件数

分類	月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
	拡声放送	無届		1	1				1	2	1			3
高音	放風そ								1			1		2
時間外	放風そ	1								2	1			3
設置所	放風そ				1									1
電蓄振鈴	高音	1				1		2			2		6	9
時間外	放風そ	12	14	14	9	15		11	14	11	16	11	5	9
ラジレ	放風そ	3	2	2	6	2		10	1		2	4	5	17
ラジレ	放風そ	10			8	1		10	8	5	11	7	6	75
人声	放風そ	9	13	13	17	7		29		2	10	4		7
人声	放風そ	9	7	7	5	1		2	5	1	1			97
人声	放風そ					6		9	1	1	4	7		10
楽その他	放風そ	5	3	3				2	53			22	24	112
楽その他	放風そ	2			4	5		1	2	17	1	1	1	24
楽その他	放風そ	3						1	1	7		4	5	31
計		55	42	42	56	54		71	91	53	52	61	62	639